

(4) 感想表現

A 主に小中学生

B 「こどものための三岸好太郎展」会期中（平成 29 年 7 月 1 日～8 月 27 日）

C 1,563 名

D 三岸好太郎の画業の一つのピークを示すものに、道化の仮面をかぶった人物像のシリーズがある。無表情な仮面の下的人物の心は、画面全体を通して表現される。そこで、鑑賞者が作品と丁寧に向き合い、仮面の下表情を想像させ、感じ取ったことを掲示して表現する仕掛けを開発した。

具体的には、

●描かれた人物の表情を読み取りやすい作品《赤い服の少女》と、顔が仮面に隠され表情を読み取れない《面の男》の 2 点を感想表現の対象作品とした。取り組みやすい前者の鑑賞を入口として、作品の読み取りがより困難な後者の鑑賞へと導くことをねらった。

●自らの感想を表現する手がかりとして、「うれしそう」「かなしそう」「ふあんそう」「はずかしそう」「その他」という選択肢を提示し、自分の感想が当てはまる欄にシールをはってもらうこととした。

結果は下記の通りである。

	《赤い服の少女》	《面の男》
うれしそう	42	66
かなしそう	159	120
ふあんそう	211	165
はずかしそう	328	56
その他	45	371



(左) 三岸好太郎《赤い服の少女》

1932 年

(右) 同《面の男》1929 年



(上) 会場の様子

(下) 感想表現
ボード